令和７年度　学校経営報告書（自己評価）

学校番号	８	学 校 名	静岡県立沼津特別支援学校伊豆田方分校	校 長 名	青木　暁乃

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
安全	**人権に配慮した指導の徹底**	・全ての職員や生徒が、互いの良さや苦手を認め、寄り添う姿勢や称賛の言葉を用いて関わっている。 ・生徒自身や保護者が、人権が尊重されていると感じている。	・人権尊重の視点での振り返りから、生徒同士では、互いの良さを認め合う意識が高まっている。 ・人権尊重の視点での振り返りから生徒、保護者、職員にそうは思わないという回答が一定数あった。職員の生徒への関わり方について情動的な指導ではなく、生徒の状態に合わせて理解を深める指導の工夫に課題があることが確認された。	C	・職員が全ての生徒に対して肯定的な意識を持って関わる重要性を確認し、個に応じて寄り添う姿勢や称賛の言葉を用いた柔軟な関わり方の追求に次年度も徹底して取り組む。 ・職員は、生徒自身が自分の良さや課題に気付き、向き合いながら主体的に活動しようとする姿を引き出す関わり方について、専門性の向上と連動させながら研修に取り組む。
安全	誰もが安心して通える体制整備と安全教育	・校内の情報や物品が、生徒の主体的な行動や気持ちを引き出せるように整理されている。 ・職員・生徒・保護者が危機管理マニュアルに沿った行動をとることができる。	・校内の物理的な整理は進んだが、各教科に応じて効果的な指導につなげられる教材教具等の整備が不足していることが確認された。 ・有事の危機管理マニュアルの十分な活用に不安を感じている職員が一定数あった。	B	・生徒が主体的に学習に取り組めるように、各教科等の年間指導計画を基に教材教具等の整備ついて検討を重ね整える。 ・生徒はマニュアルに沿った行動への意識は高まっている。それを支援する職員、保護者については、有事に即生かせる危機管理マニュアルの見直しを行う。
専門	生徒との対話を通した教育的ニーズの把握とそれに応じた教育活動の実践	・生徒自身が自分の得意や苦手を知り、生活の中で活かしている。 ・作業学習をはじめとする学習場面において、生徒が自分の得意を活かし、主体となって活躍している。	・生徒、職員の振り返りから、生徒自身が得意を生かして主体的に活動しているという評価が多く見られた。 ・職員の振り返りからは、生徒個々の目標設定や指導内容、方法について、生徒自身が自分の頑張るポイントを実感し、向き合いながら目標達成できる指導の必要性が確認できた。	B	・授業の中で、タブレットやグループワークの活用により自分の思いの表出や互いの考えを知る機会を多く設定することで、自分の良さや苦手に気付き自分の課題に前向きに取り組む姿が見られた。 ・職員は、一人一人の良さをみとめながら課題への指導を行う際の目標設定や指導内容、方法について生徒が「少し頑張ればできる」を大切した研修に取り組んでいく。その際は、生徒への肯定的なかかわり方を意識して取り組んでいく。

専門	**個に応じた適切な進路決定の実現**	・生徒が、勤労観や職業適性について理解を進めている。 ・保護者が、進路選択や職場実習の価値を重視し、協働している。	・全職員が、職業・家庭科でのキャリアパスポートの活用、3年間の進路指導のつながりの工夫等を通して生徒の自己理解が進んだと評価した。 ・保護者の振り返りでは、我が子の進路選択や職場実習について不安を感じながらも、一方で、子どもの実態を受容し認めながら前向きに向き合う回答が多数あった。	A	・生徒の学びや保護者への啓発については、進路決定までの3年間の流れを整理しながら進めたことで将来の働く生活の生徒、保護者の理解が少しずつ深まってきた。 ・今年度整理してきた3年間の進路学習と進路決定までの流れにおける生徒、保護者への指導と支援を、次年度再度工夫を加えながら実践していくことで確かな取り組みにしていく。
連携	**関係諸機関とのつながりを大切にした切れ目のない支援と指導**	・職員が、生徒や保護者のニーズを把握し、必要に応じて面談や関係者会議を実施している。 ・保護者が、生活安定や地域安全の価値を重視し、学校と連携している。	・職員の振り返りから、回数等の開催方法についての課題はあるが効果的な支援と指導はできたという評価であった。 ・保護者の振り返りから、必要に応じて適切な面談や関係者会議を進めることができたという評価があった。	A	・各学年で個々の生徒の現状把握や指導の方向性等を分析検討して、必要に応じて学校内及び関係機関と共有しチームで課題解決に向けて取り組むことができた。 ・学校内での情報共有の迅速かつ効果的な方法を工夫して取り組む。
連携	生徒の自立と輝きに向けた共生・共育の充実	・生徒が、田方農業高校との共同学習や行事をはじめ、地域での交流学習に主体的に参加している。 ・学校運営協議会と教職員とが、相互に連動している。	・生徒が主体的に参加することができていると職員100%、保護者93%が評価している。更なる充実に向けての意見が寄せられた。 ・各委員の立場を通して、学校と協働した活動に取り組むことができた。	A	・生徒が共同学習において、田方農業高校の生徒とのつながりの中で自分の目標に向けて主体的に学んでいた。今後も各教科等の授業を共同学習に取り入れる意義を確認し、確かな学びのある授業づくりに取り組む。 ・学校運営協議会委員との協働した取り組みを継続し生徒に合った取り組みにするために職員が学校運営協議会に積極的に参画できるようにする。
チーム	**チームとしてやりがいのある職場の実現**	・教職員が、お互いを認め合い、チームとしての成長を実感している。 ・職員が、本校事務室からの連絡を適時に確認し、連携している。	・全ての職員がチームとしての成長は実感しているという回答であった。 ・職員は管理職と相談しながら事務室と連携して業務を進めることができていた。	B	・年度当初や学期の節目にグループワークで教職員が自分の取り組みについて、互いに情報交換したり、認め合ったりする機会を効果的に設定する。 ・職員が各担当する役割の中で事務室とのやりとりを適時に行い、連携しながら仕事を進めることができた。